

DSD 事始め顛末記(3)

—PCM 録音—

1. はじめに

クロックリベラメンテの試聴レポートにおいて、BS 録画の再生や CD の再生においてクロックリベラメンテ経由のクロック入力を行った上、いったんアナログに変換したのち TASCAM のレコーダー DR100 を用いて WAV に録音し、それらをダウンサンプリングして CDR を作成し、クロックリベラメンテによるクロック入力効果が CDR にも記録されることを確認してきました。

今回、MR2000sBK を導入したことにより直接デジタル録音ができるようになりましたので、DR100 の録音と比較してみました。

2. 録音条件

2-1) PCM 録音条件

実施した録音条件の比較は次のとおりですが、DR100 については既に保有している WAV があるので、それらを流用しています。

録音機	変換	録音時sampling
DR100	D to A to D	96KHz, 24bit
MR2000sBK	D to D	96KHz, 24bit
MR2000sBK	D to D	44.1KHz, 16bit

そして新たに MR2000sBK で Digital to Digital で録音時の sampling 周波数を変えて録音し、それらから三つの Track をセットにして CDR を作成しました。

録音のルートは DSD 事始め顛末記(2)で実施したとおりで、CCV-5 と MR2000sBK にクロック入力を行っています。音源は DR100 で録音した時と同じ BS 録画と CD を使用しています。

2-2) 録音 WAV の取り出しと CDR の作成

録音した MR2000sBK の HDD の WAV ファイルは、MR2000sBK を USB モードに設定して MR2000sBK の HDD を Slave にし、MR2000sBK の MRProject 中の WAV を PC の HDD にバックアップ保管します。そして PC 上で 96KHz, 24bit WAV を 44.1KHz, 16bit WAV にダウンコンバートして CDR を作成します。44.1KHz, 16bit WAV で録音したものはそのまま CDR に焼きます。

3. MR2000sBK 録音 CDR の試聴

これら 3 者の違いは CDR レベルで確認でき、DR100 によるこれまでのアナログ録

音では、DAC からプリアンプまでの機器とケーブルの音が乗っていることが分かりました。

MR2000sBK による Digital to Digital 録音ではアナログ録音より比較的ニュートラルであり、録音時のサンプリング周波数をアップサンプリングする方がディテールの再現に優れているように感じます。

CD の場合、GPS-777 によるクロック入力の結果、元音源の CD の音より、ディテールがはっきり分かり音楽の表情が豊かになってくることが分かりました。

4. まとめ

MR2000sBK による Digital to Digital 録音では DR-100 によるアナログ録音より信号経路が短絡され、固有の音色が乗りにくいことが分かりました。また、前段の CCV-5 と MR2000sBK へのクロック入力の効果が顕著に出て好ましい方向に音質が変わることが確認できました。

以上